

「移民1000万人時代!? 豊かな共生に向けて市民の役割を考える」



定期総会に先立ち、毛受敏浩さんをお招きし「移民1000万人時代!? 豊かな共生に向けて市民の役割を考える」と題した記念講演会が行われました。毛受さんは、日本の人口減少に伴い在留外国人は増え続け、2040年には1千万人に達すると予測される中、日本の産業は外国人の労働力に依存せざるを得なくなっている。外国人を「使い勝手のよい労働力」として低賃金や生活保障の弱い状態にしたままにするのではなく、実態を踏まえて「共生」だけでなく「共栄」を重視する移民社会基本法の制定が必要であると訴えました。現状は「日本人ファースト」という排外主義が社会にはびこる一面があります。政府も「不法移民ゼロプラン」で管理を厳格化しています。その一方で、中長期的な就労や家族呼び寄せの道を整備し、日本語教育の国家

講師：毛受 敏浩 氏（関西国際大学客員教授）  
資格化など社会統合政策も進めるなど、政府の政策は二重構造になっているのです。自治体レベルでは、外国人を「地域存続に欠かせない」とする多文化共生の条例づくりに動いているところも少なくありません。課題となっているのは、外国にルーツのある子どもの教育です。漢字などの言語習得が壁になり、卒業後の就職も非正規雇用が多く、低賃金が固定化し将来的な社会の分断リスクがあることが指摘されました。  
会場からは、定員割れの地方の大学では、外国人留学生を受け入れて充足させるところが少なくない。こうした留学生を地域に定着させることが人材確保と地域活性化に資する。そのために、大学や自治体、企業、NPOの連携による支援体制づくりを訴える声がありました。（神野）



定期総会

講演会に引き続いて、総会が開催されました。参加者はオンラインを含めて37人。2025年度事業報告と決算、2026年度の事業計画と予算について各担当者からの議案説明の後、グループに分かれて質問や意見を出し合いました。



【主な意見として】

- ・決算書を見るとここ数年赤字が続いている。今後の見通しは？
- ・企業からの支援はどうなっているか。
- ・ボランティアだけでなく、専従職員も高齢化してい

るのが心配。  
・総会の参加者が少ない。参加のハードルが高いのでは。  
・もっと若い世代に任せてもいいのでは。  
【議長団からの回答として】  
・財政に関しては、財源開発ユニットが立ち上がった。今後、寄付についての勉強会を実施しながら仕組みを作っていく。  
・多様な世代の人が関わっているのが協会の強み。今日の総会も新しいメンバーが参加していて心強い。各グループから忌憚のない意見がいろいろ飛び出し、厳しくもあり温かい雰囲気総会となりました。最後に、アソシエーターを代表してお2人の方に、理事長から委嘱状が手渡されました。  
総会後は会員交流会へと移り、参加者同士の親睦を深めました。（西江）



編集後記▶わが家では子どもがプールを楽しみにしていますが、私は論文の締切に向けて、幼少期の夏休みの宿題を思い出しています。先般、CANVAS NEWSで紹介しているイベントに参加し、浜甲子園団地を訪れ、夏の海辺の街並みに魅力を感じながら歩きました。とはいえ暑い日が続きます。どうぞご自愛ください。（稲田）

キャンパス・ニュース Vol.79 (2026年夏号)  
発行 社会福祉法人 大阪ボランティア協会  
〒540-0012 大阪市中央区谷町2丁目2-20 2F  
市民活動スクエア「CANVAS谷町」  
電話 06-6809-4901 url https://osakavol.org/  
メール office@osakavol.org  
2026.8.23

CANVAS NEWS

CANVAS=Civic ANd Voluntary Action Square



キャンパス・ニュース

「キャンパス・ニュース」は市民活動スクエアCANVAS谷町と大阪ボランティア協会の「今日」をお届けするマガジンです！

【CONTENTS】

- 1 協会の活動紹介、社会課題の解決に向き合うNPOインタビュー
  - 2 職員紹介
  - 3 SNS NEWS、名所・旧跡巡り開催報告
  - 4 2026年度定期総会&記念講演会報告
- 挟み込み 協力感謝

より詳しい内容を協会ホームページに掲載しています。ぜひご覧ください。



TOPICS

協会の活動紹介 ～委員会・チーム・ユニットの現場から～

協会のさまざまな活動を支える委員会やチーム、ユニットの取り組みを、現場の生の声とともに皆さまへお届けします。

ボランティア・市民活動ライブラリー運営チーム

ボランティア・市民活動ライブラリーチームでは、多くの人々に利用してもらうため、主に3つの活動に注力してきました。一つ目は、各団体の周年史の収集です。2021年～24年に10～130周年を迎える市民活動団体に寄贈を呼びかけ、各地から貴重な資料を約60冊送って頂きました。中には100年を超える周年史も！二つ目は、『ウォロ』のバックナンバーの配架です。三つ目は、ライブラリーの蔵書検索システムの公開です。  
これにより、所蔵している約5000冊の資料や書籍の検索がオンラインでできるようになりました。ぜひライブラリーで周年誌や資料を手にとって、市民活動の歴史を味わ

っていただければと思います。一緒に活動してくれるチームメンバーも募集中です！（久保）



蔵書検索はこちら→



社会課題の解決に向き合うNPOインタビュー

社会課題の解決に向き合い、活動する、協会のパートナー登録団体にインタビューをしました。

新規登録団体 棚田LOVERS 永菅裕一さん

2007年5月、兵庫県市川町上牛尾の棚田を舞台に活動が始めたのが、棚田LOVERSです。きっかけは、地域の方から聞いた「あと5年で棚田がなくなってしまうかもしれない」という言葉でした。棚田は、地域の方々が草を刈り、水を管理し、田んぼを耕し続けてきたからこそ守られてきた場所と知り、担い手不足によって棚田の美しい風景や生き物の住处、地域の文化が失われてはいけなと、仲間と立ち上がりました。  
団体では主に、棚田の保全・再生・活用を中心に、子どもから大人までが参加できる田植え、稲刈り、草刈り、生きもの観察、味噌づくり、土鍋・羽釜ごはん炊き体験など、五感で学べる体験活動を行っています。また、地域、企業、行政とも連携した棚田での自然体験などには、これまで12,950人以上が参加されました。  
子どもたち向けの活動では、お米育てることから、命のつながりや食の大切さ、人と協力する喜びといった“学び”を得てもらえるように心がけています。参加者から「これ

だけ大変ならお米を残したらあかなー」「棚田の跡継ぎになりたい」という声が聞かれ、喜びを感じるとともに、活動の原動力となっています。  
棚田保全は昔から続いてきた農作業などが積み重ねられ、美しい風景が維持されています。そのことで人々が自然と食を学び、生物と共存し、都市と農村が繋がる大切な場が維持されています。この価値をより多くの方に伝え、100年先にも棚田の恵みが続くことを目指しています。（稲田）



2025年棚田♡子育てフェス集合写真（©北村隼人氏撮影）

真夏の日差しにも負けない  
元気が集まっています！

# 職員紹介 2026



青山 織衣  
(あおやまおりえ)

インクルーシブボラン  
ティアの推進、災害支援、企  
業相談などの担当です！



市居 利絵  
(いちいりえ)

「ボランティアしたい／  
来てほしい」という方は、  
気軽にお声掛けください！



江渕 桂子  
(えぶちけいこ)

2026年8月末をもって、  
退職いたします。



岡村 豊子  
(おかむらとよこ)

書籍と『ウォロ』の注文を  
お待ちしております！



木下 通理  
(きのしたみちたか)

活動相談や英語対応を  
ご希望の方は  
お申しつけください！



田中 勉  
(たなかつとむ)

物品の寄贈があれば、  
ご相談ください。



永井 美佳  
(ながいみか)

人事と財政といえば、  
永井へ何でも  
ご意見くださいませ♪



長田 千裕  
(ながたちひろ)

会議室に関して  
わからないことがあれば、  
いつでもお声がけください！



堀内 薫  
(ほりうちかおる)

窓口でアルバイトをしている学  
生です。ボラ協でいろんなこ  
とを学ばせてもらっています！



増田 宏幸  
(ますだひろあき)

ウォロの奥付には感想を入力  
できるQRコードがあります。  
ぜひ読後感お寄せください！



椋木 美緒  
(むくのぎみお)

協会のメンバーに  
「講師を依頼したい」という方、  
まずはご相談ください！



山崎 桜愛  
(やまさきさえ)

この春から  
コーディネーターデビュー  
しました！



山科 圭子  
(やましなけいこ)

職員のシニア代表です！  
会員や寄付の事務を  
担当しています。

経理業務は2026年度から  
「大松祐公公認会計士・税  
理士事務所」に委託してい  
ます！（週2回、協会に来て  
いただいています）



北出 康博  
(きたでやすひろ)

2026年3月末で、退職されました。  
秋元さん、高橋さん、不老さん、森本さん、  
お世話になり、ありがとうございました！



秋元 美樹  
(あきもとみき)

2023年10月～  
2年6か月勤務



高橋 聡子  
(たかはしさとこ)

2021年2月～  
5年2か月勤務



不老 美月  
(ふろうみつぎ)

2021年9月～  
4年7か月勤務



森本 聡  
(もりもとさとし)

2022年4月～  
4年勤務

## 大阪ボランティア協会 SNS NEWS 2nd

Facebook夏号のイイね

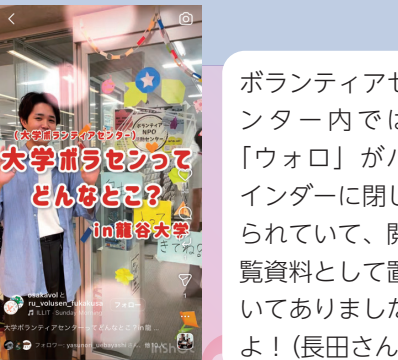
SNSの裏話(第2回)

【大阪ボランティア協会】  
【災害ボランティアチームSUG・活動報告】  
ゴールデンウィークに能登半島へ行ってきました！  
今回はいろいろなボランティアチームからごちやまでメンバーを編成。七尾市中島町で開催され  
た「じんのびマルシェ」で、たご焼きを焼いてきました！ 売上は運営費にあててもらうため  
被災地NGOの協賛センターに寄付。  
翌日は、輪島市で木材運搬のお手伝い、朝市や館内も見学してきました。  
全員のボランティアさんとお話しでき、楽しくいいボランティアツアーでしたー！！  
(二) 表示を縮小



能登半島での活動報告に73件のイイね！  
をいただきました😊 これからも現地で  
の活動の様子をシェアしていくので、ぜ  
ひ一緒に見守ってください🌟

協会のSNS運用に迫るコーナー  
今回は、運用を担う学生広報部「ゆ  
にあっぴ」のメンバーから伺った、ま  
もなく再生回数3000回\*を突破し  
そうなInstagram投稿のウラ話を  
ご紹介します！ (シュナイデル)  
\*2945回再生 (7/15時点)



ボランティアセ  
ンター内では  
「ウォロ」がバ  
イnderに閉じ  
られていて、閲  
覧資料として置  
いてありました  
よ！(長田さん)



「ゆにあっぴ」では自分たちで取材も行  
います。メンバー間で「学生ボランティ  
アセンターを取材したい！」という声を  
キッカケに、取材の実現に至りました。  
これだけ多くの方に見てもらえる投稿に  
なり、嬉しいです！(堀内さん)



## 市民活動版 名所旧跡めぐり 〈浜甲子園団地編〉

6月14日(日)に、「市民活動版 名所・旧跡めぐり〈浜甲子園団地編〉」  
を開催し、総勢15人(スタッフ含む)が参加しました。当日は海辺をじっ  
くり歩きながら、浜甲子園団地の自治会の歴史を学びました。  
UR西宮浜甲子園団地自治会長の森本和弘さんからは、1964年の自治会  
発足以来62年にわたる変遷を伺いました。現在は、行政やURとの協議に加  
え、ふれあい喫茶や夏祭り、キッチンガーデンなど、多彩な取り組みを続け  
ています。一方で、担い手不足や自治会加入率の低下といった課題も抱えて  
おり、今回は自治会が地域を支える大きな力であることを再認識できる企画  
となりました。次回は9月27日(日)、〈交流(むすび)の家編〉を開催予定  
です。ぜひご参加ください。(稲田)



今回の詳細  
はQRコー  
ドから→

